

2002 3/16-17



天候 晴れ



ブナの樹海に囲まれてひっそりとたたずむ前面ガラス張りの今風のログハウス。扇ノ山の山頂小屋はそのイメージにぴったりである。山自体がデカく稜線までの取り付きに平坦な林道が長く、かなりの時間を要するところである。また滑降自体もそれほどたいした斜面はなく、ブナの原生林に抱かれて滑る感覚はクロカンスキーが似合っているかもしれない。

メンバー

石野美輝朗 53 才
横小路利朗 53 才
大塚賢一 47 才



私にとって初めての扇ノ山・・・氷ノ山のからいつも眺めていては一度滑りに行きたいと思っていた山である。

この山は四季を通じて石野氏のホームグラウンド（夏は沢登り、秋はキノコ狩り）であるので、全てをまかせて連れて行ってもらった。

16日 晴れ

8:22 493 m 広留野分岐

29号線から戸倉峠を越えて川沿いに上がっていき姫路村を過ぎて、林道を走らせる。途中ポンプ小屋を過ぎるころ(先々週はここにデポだったそうである)、両側は残雪で道幅もどんどん狭くなってくる。河合谷線7km、ふる里の森3km、広留野3kmの看板のあるところに車をデポ。



車デポ地点よりシール登行

ここからいきなりシールを付けて広留野の大根畑方面へと進んでいく。

9:14 巨大杉の間を軽快に進んでいく。それにしても天高くそびえるとはこのことを言うのだろう、すごい杉の手入れされている大木である。

9:21 695 m 大根畑到着

ものすごい広大な大根畑である。こんな丘に開墾された畑はあるとは驚きである、と言っても今は一面真っ白く雪で閉ざされているのもものすごい平原である。ここから見える扇ノ山は遙か彼方である。



巨大杉に囲まれて

10:07 小休止

天気もすこぶるいいので、平原の中でザックを降ろしてティータイムに興じる。振り向けば小さく氷ノ山が見える。

11:15 大根畑をやっと過ぎて山らしく林道に入っていく。しかし扇ノ山のふところは大きいので少々ダレ気味になってきた。

11:41 953 m

危なっかしいスノーブリッジを渡り、やっと林道から逸れて山に取り付き稜線を目指す。



紺碧の空とぶな林と白い海

12:23 1050 m 稜線に出る

やっと扇ノ山が近くに姿を現した、すごい巨木のブナに囲まれてポツンと小屋が建っている。

ここからピークを3つ越えれば山頂である。シールでの滑降が火照った身体にたまらなく快適である。

単独山スキーと合流する。

13:14 1309m 扇ノ山山頂着

早速小屋にザックをデポして北斜面を2本滑ることにする。雪質は重雪で回すのに一苦勞である、こういうときは横さんの短板が威力を発揮する。とて



山頂小屋



最高のビールに舌鼓



ステーキ&ポーク

も山スキー一年生とは思われない滑降である。

17:05 晩再会の始まり

前面ガラス張りの小屋に西日が入り込みポカポカと暖かく快適な2階で、天然冷蔵庫で冷えたビールで乾杯はこの上なく『ウマイ!』の3文字がピッタリである。肴はハムステーキのバター焼き、ポークウインナーのポイルetcとこれまた極上のつまみである。

17:33 山スキーヤー登場
なんと、歳を聞けば67才のご夫婦である。肥前畑方面

から登ってきたとのことである。

山スキー歴は30年ほどしている大ベテラン山やさんである。

来年、山岳会のスキーツアーをするのでこの扇ノ山を視察に来ているとのことであった。

美味しい料理と美酒に酔いしれて、いつもの極薄の夏用シュラフに潜り込んで轟沈する。夜中はやはりものすごい風が吹き荒れていた・・・明朝の雪はカチコチだろうなあ。

17日 晴れ

5:45 起床

朝からいい天気である。外はマイナスであるが寒さを感じない。今日は東方面のシブキ山1088m経由で中の丸-仏の尾1227mへアタックである。阪下夫妻も一緒に行くことになり会話が弾む。

7:35 山頂より滑降



山頂からの滑降

やはり昨夜の冷え込みと強風で雪は硬雪になっていて横さんも昨日のようには軽快に滑れない、悪戦苦闘である。300mほど軽快?に滑降してトラバース気味に東へ滑り込むと大根畑である。

8:38 ここで我々はザックをデポ、シールを付けてシブキ山に登る。

8:55 1088m シブキ山山頂
ここからシールを付けたままの滑降は非常にバランスが難しい。ほどよく滑降すると広大な雪原、中の丸に着く。こんな所でガスられたら何も分からなくなる所である。



華麗な悦子夫人の滑

仏の尾に取り付く稜線に登ると、左に青が丸1239mがそそるような斜面を見せて手招きしているようである(来年は滑るぞ~)。

ブナの原生林に抱かれながらひたすらシール歩きで仏の尾を目指す。

9:54 1227m 仏の尾山頂
この山頂はブッシュが雪の下で広々としていて景観も素晴らしい。



中の丸で・・・阪下氏

ここで阪下夫妻と別れる。彼ら



危ない橋渡り

はここから北斜面を滑り込み畑ヶ平方面に向かい林道に取り付き肥前畑のデポ地点へ向かう。

我々は、ここからシブキ山の下のザックデポ地点までブナの原生林を滑降である。

11:05 ザックデポ地点着
ここから山陽自然歩道に入りミズナラやブナの巨木

を眺めながらひたすら殆ど平坦なところを滑って?行く。途中で雪が橋に積もっているのでバランスを保ちながら渡る。ここからシールを付けてトラバール気味に上がっていくと昨日来た林道に合流。

12:11 小休止

大根畑の入り口でティータイム。ここからシールを外してさあ、大滑降の始まりだ!、と言いたいがいかんせんこの広大な大根畑を過ぎるまでは殆ど平坦なのでクロカンの板が欲しいくらいである。

13:05 無事下山

大根畑を過ぎると、林道の滑降であるが所々で雪切れがあるので少し難儀するが、そこは折れた杉の枝がカバーしてくれて一度も板を外さずに無事に車デポ地点に到着。



素晴らしい2日間を与えてくれた扇ノ山に感謝!

PS.

扇ノ山は初めてであったが、その懐は奥が深いのでガスられたら迷うこと必至だろう。アプローチが非常に長いために登山者はもちろん、山スキーヤーにもほとんど出くわさない。

ワンデイでも可能だが、やはり余裕を持って山頂小屋泊の2日間で色々縦走したい山である。